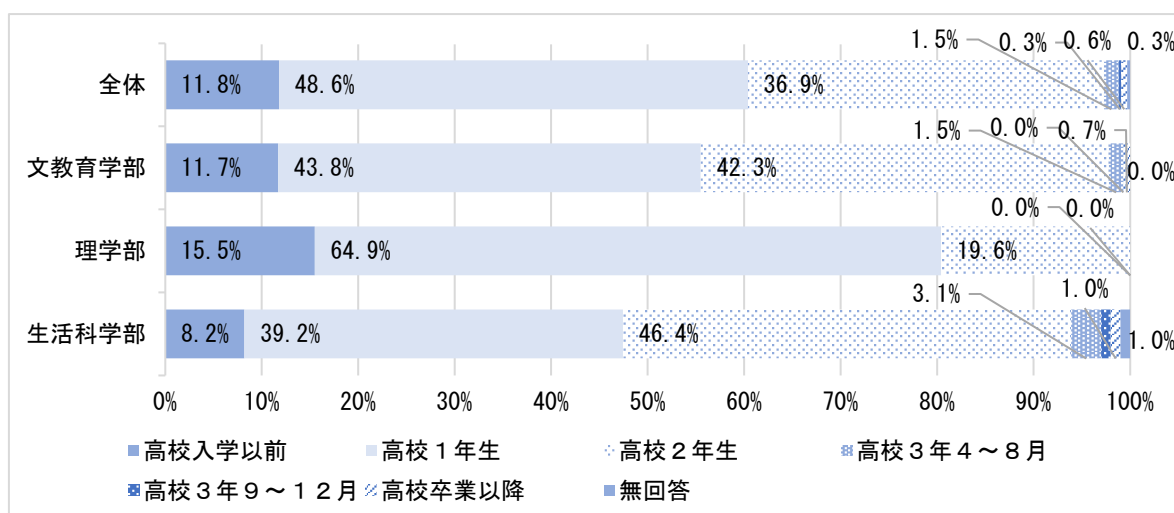


第4章 高校時代進路選択の分析結果

本章では、一般入試合格者411名(内、回答者331名)にこれまでの進路選択にかかわる質問や、高校時代の進路指導、お茶の水女子大学を選んだ理由等について尋ねた結果を報告する。

図表1-1は、高校時代にコース(文系・理系)を決めた時期について尋ねたものである。全体では「高校1年生」に文理のコース選択をしたと回答した割合が48.6%と最も多い割合を示しており、次いで「高校2年生」が36.9%、「高校入学以前」が11.8%と続く。全体の97%以上が、高校3年生になる前に文理の選択を終了している。

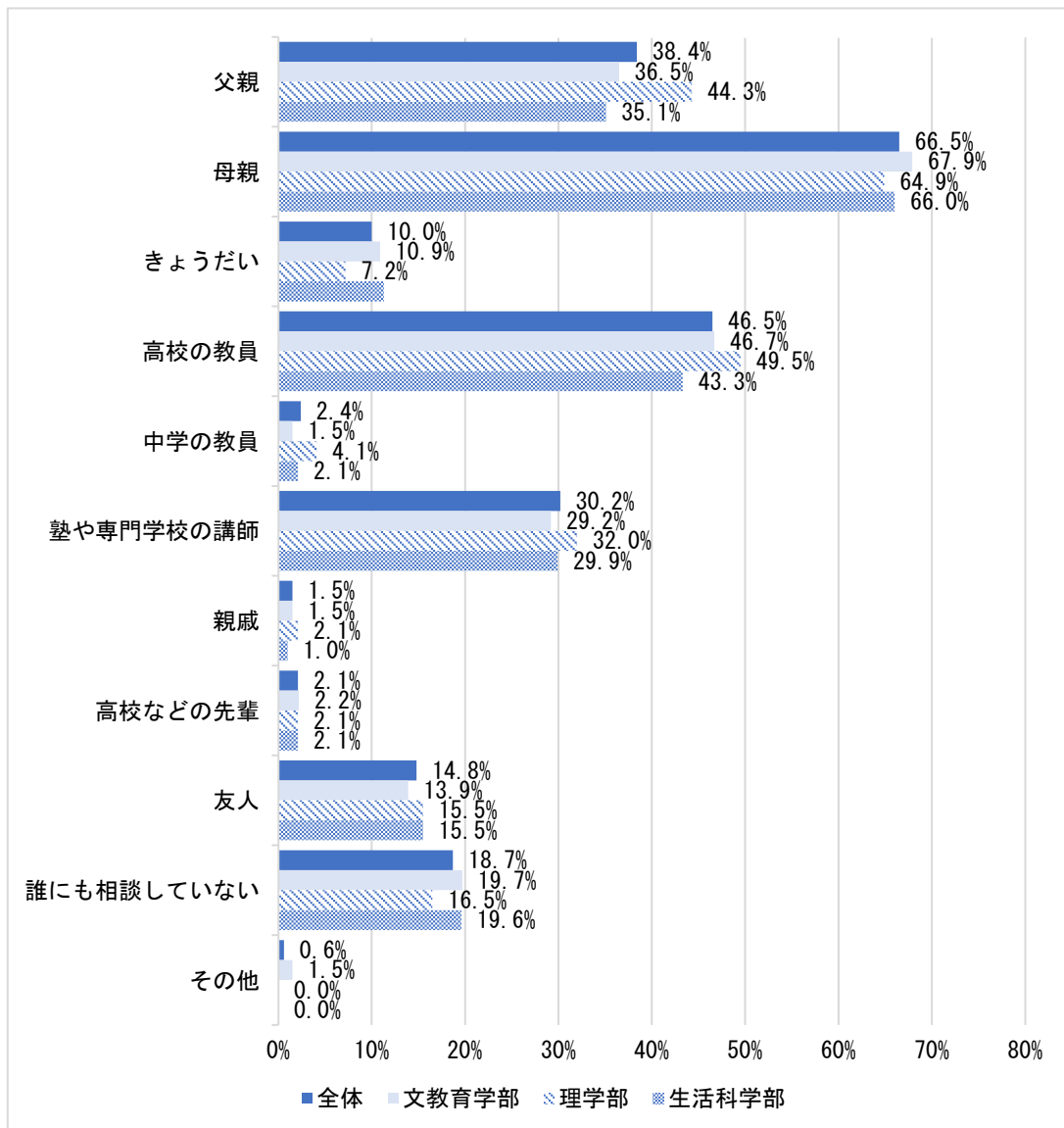
学部別に見ると、高校入学前に進路選択が行われている割合が最も高いのは、理学部で15.5%、次に文教育学部11.7%であった。昨年度の調査結果と比べて見ると、どの学部においても高校入学以前に進路選択を行った割合が低下している。文教育学部と生活科学部は高校1年生の時期に進路選択を行った割合も低下し、高校2年生の時期に進路選択を行った割合が増加した。それに対し、理学部は高校1年生の時期に進路選択を行った割合が昨年度より13%増加し、高校2年生で進路選択を行った割合が低下した。



図表1-1 文理選択の時期

図表1-2では、専門(学科)を選ぶ際に、相談した人について、複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も多い割合を示しているのは、「母親」の66.5%であり、次に「高校の教員」46.5%、「父親」38.4%であった。「誰にも相談していない」と回答した割合も18.7%と一定数あることが示された。

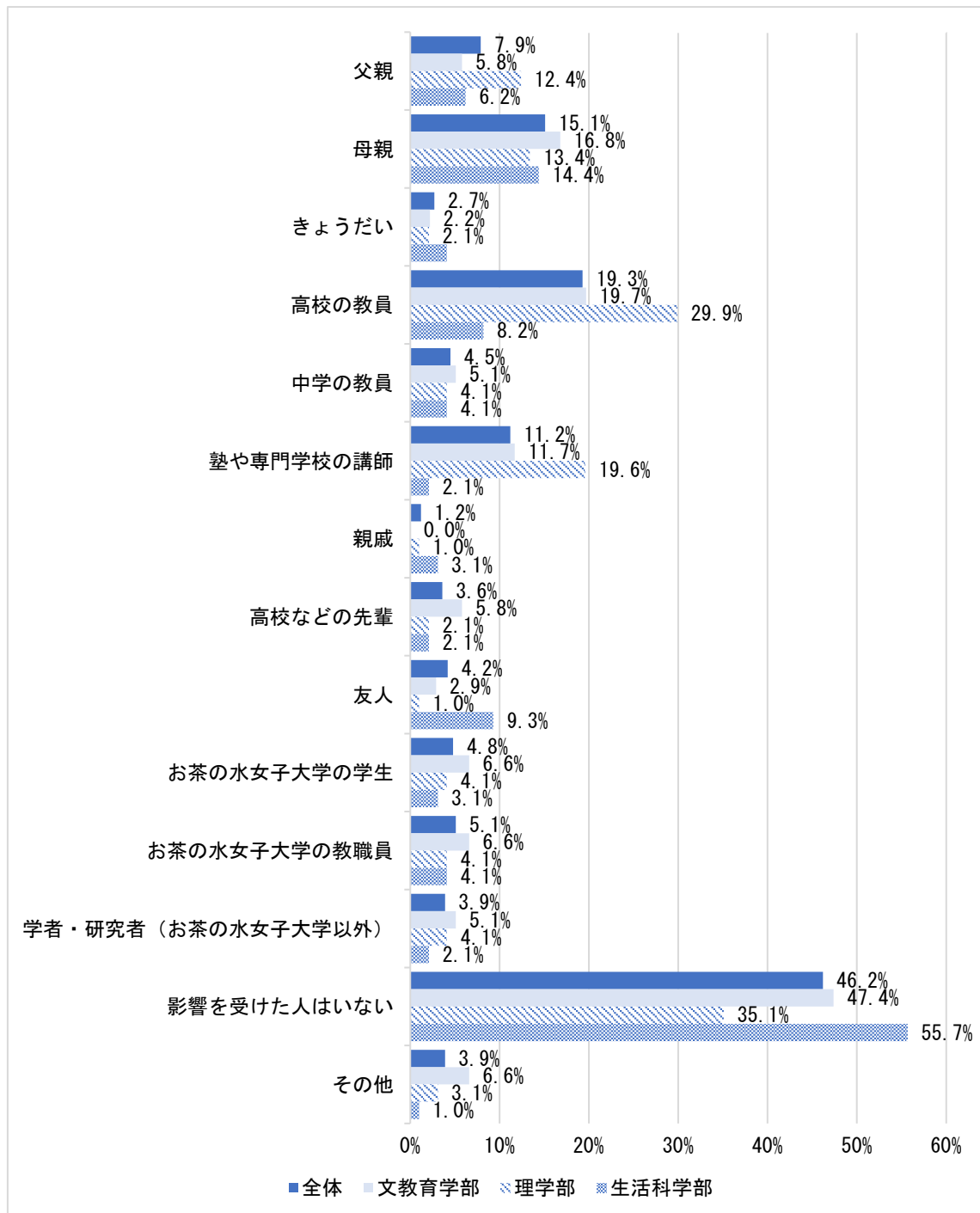
学部別に見ても、どの学部においても、相談した人の最も高い割合を示したのは「母親」であり、次いで「高校の教員」、「父親」という結果であった。



図表 1-2 専門（学科）を選ぶ際に相談した人

図表 1-3 では、専門（学科）を選ぶに当たって影響を受けた人について、複数回答可として尋ねた結果である。最も多いものは「影響を受けた人はいない」で 46.2%であった。影響を受けた人がいると回答した中では全体では「高校の教員」が最も多く 19.3%、次に「母親」が 15.1%、「塾や専門学校の講師」が 11.2%であった。平成 30 年度から令和 3 年度までは割合が多い順に「高校の教員」、「母親」、「父親」であったが、今年度は「塾や専門学校の講師」が 3 番目になり、「父親」が 4 番目になった。

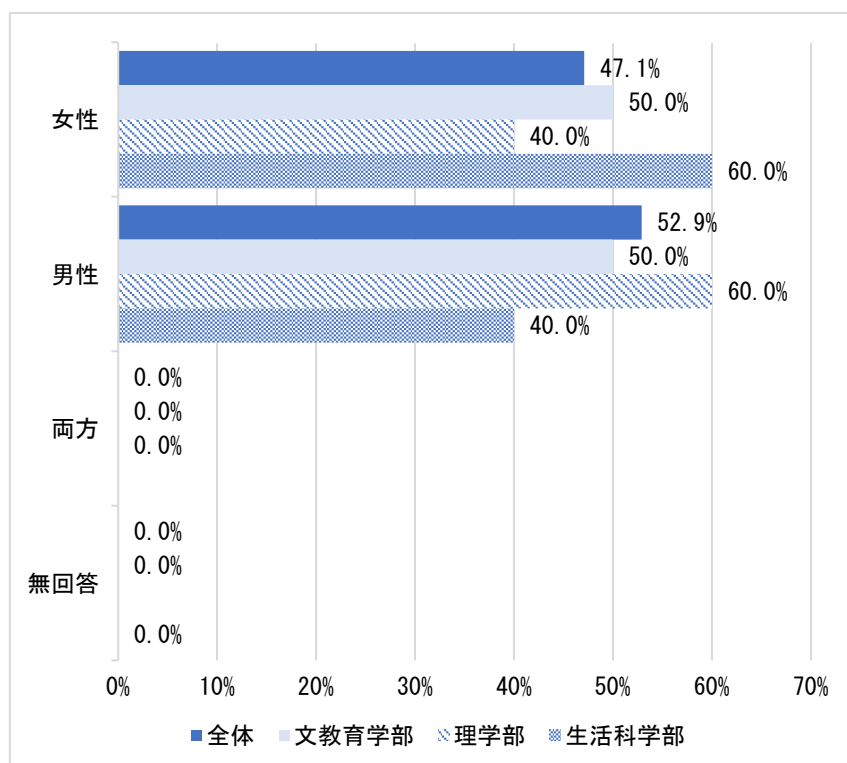
学部別にみると、文教育学部及び理学部では、最も影響を受けたのは「高校の教員」であり、生活科学部の場合は「母親」である。



図表 1-3 専門（学科）を選ぶ際に影響を受けた人

図表 1-4～1-7 では、専門（学科）を選ぶにあたって、「中学の教員」もしくは「高校の教員」から影響を受けたと回答した新入生 70 名に、その教員について尋ねた結果である。図表 1-4 では影響を受けた教員の性別、図表 1-5 では教員の専門科目、図表 1-6、1-7 では教員の卒業大学について尋ねた結果を示している。

昨年度はどの学部においても女性教員より男性教員から影響を受けたと回答する割合が高かったが、今年度は女性教員から影響を受けたと回答した割合が全体的に約 15% 上昇し、47.1% になっている。学部別に見ると、文教育学部は各 50% で、理学部は男性教員から影響を受けた割合が 60% に対し、生活科学部は女性教員から影響を受けた割合が 60% である。



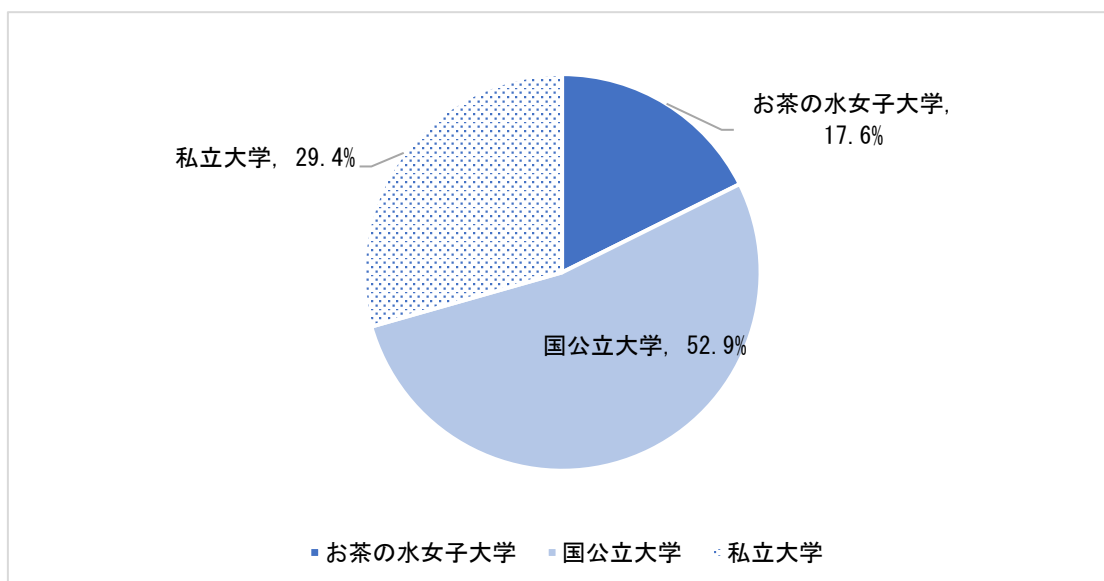
図表 1-4 影響を受けた教員（中学/高校）の性別

図表 1-5 では、影響を受けた教員の専門科目が、自身の入学学科と深くかかわりを持つものである場合が多いことが示された。これは、昨年度の新入生調査でも同じ結果であった。

図表 1-5 影響を受けた教員（中学/高校）の専門

入学学部	入学学科	影響を受けた先生の専門
文教育学部	人文科学科	世界史(2)、英語(1)、倫理(1)、地理(1)、日本文学(1)
	言語文化学科	国語(6)、英語(4)、日本文学(1)、世界史(1)、フランス語(1)
	人間社会科学科	教育学(2)、社会学(1)、数学(1)、国語(1)、理科(1)
	芸術・表現行動学科	音楽(3)、国語(1)
理学部	数学科	数学(3)、日本史(1)
	物理学科	物理(5)
	化学科	化学(2)、有機化学(1)
	生物学科	生物(12)
	情報科学科	数学(2)、機械(1)
生活科学部	食物栄養学科	数学(1)
	人間・環境科学科	
	人間生活学科	政治経済(1)、社会学(1)、地理公民(1)
	心理学科	英語(2)、倫理(1)、災害(1)、国語(1)

図表 1-6 では、影響を受けた教員の卒業大学について回答のあった 34 名の結果を、お茶の水女子大学、その他の国公立大学、私立大学の割合を示したものである。また、図表 1-7 ではその卒業大学名を一覧で示している。影響を受けた教員の卒業大学について回答があったうち、17.6%がお茶の水女子大学を卒業した教員であることが示され、昨年度の 16.7%からやや上昇している。

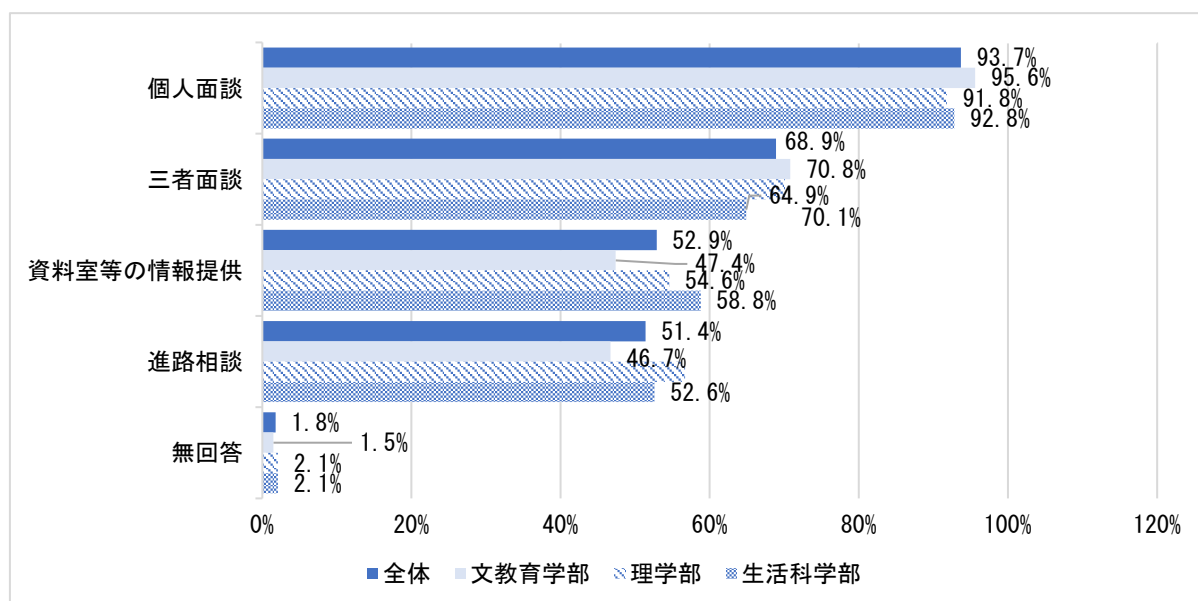


図表 1-6 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学

図表 1-7 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学名一覧

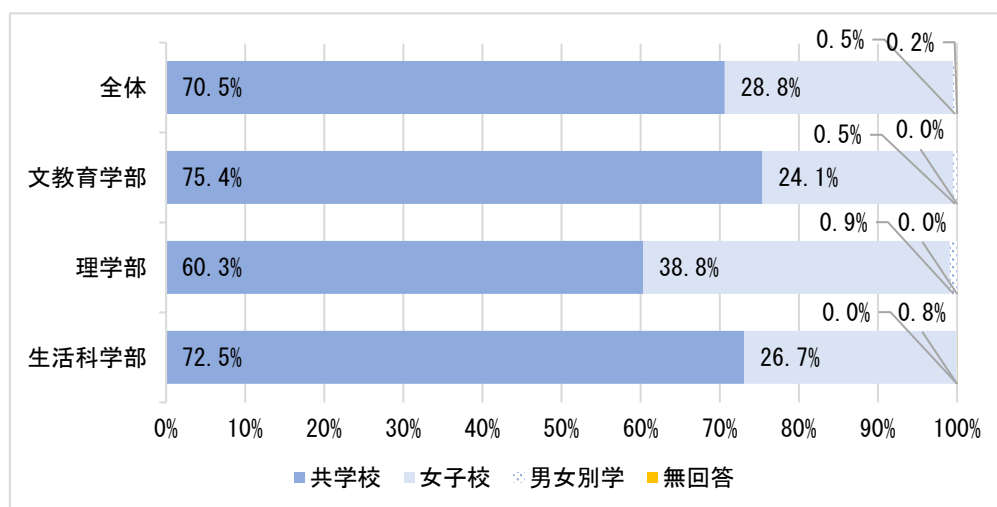
国公立大学	お茶の水女子大学(6)、東京大学(2)、名古屋大学(2)、東京外国語大学(2)、東京学芸大学(2)、横浜市立大学(1)、京都大学(1)、京都教育大学(1)、金沢大学(1)、群馬大学(1)、広島大学(1)、山形大学(1)、神戸大学(1)、東京都立大学(1)、東北大学(1)
私立大学	早稲田大学(4)、上智大学(2)、東京理科大学(2)、フェリス学院大学(1)、慶応義塾大学(1)

図表 1-8 では、高等学校で受けた進路指導がどのようなものだったかについて、「個人面談」、「三者面談」、「資料室等の情報提供」、「進路相談」の4つから複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も高い割合を示していたものは「個人面談」で93.7%であり、「三者面談」が第二位を占めている。文教育学部と生活科学部は第三位が「資料室などの情報提供」であるのに対し、理学部の場合第三位は「進路相談」になっている。



図表 1-8 高等学校で受けた進路指導

図表 1-9 では、出身高等学校について尋ねた結果である。全体では高等学校が「共学校」であると回答した割合が 70.5%、「女子校」であると回答した割合は 28.8%であった。学部別にみると、理学部では、「共学校」と回答した割合が他 2 学部と比べて低い結果であった。



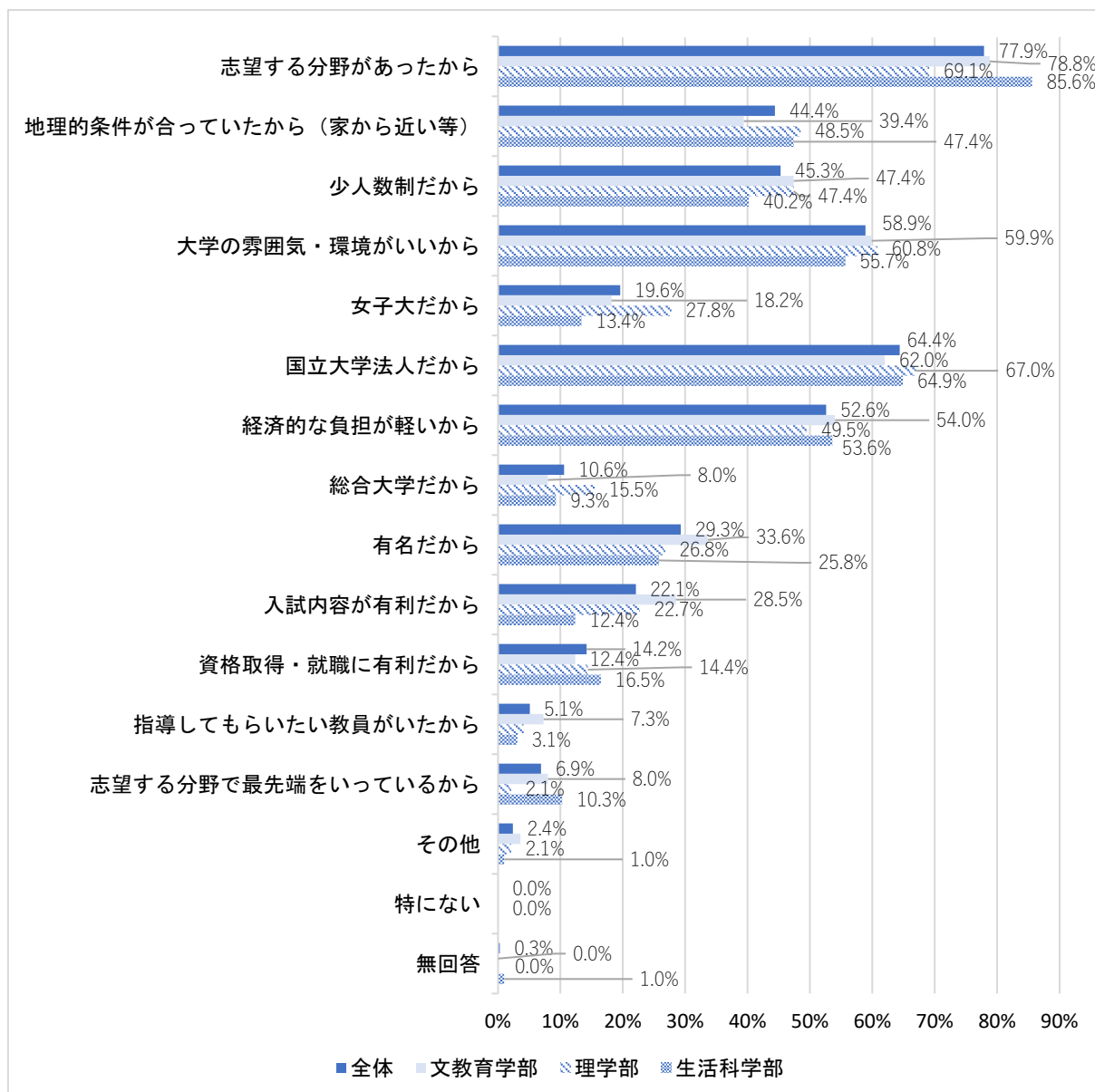
図表 1-9 出身高等学校について（共学/女子校/男女別学）

図表 1-10 では、お茶の水女子大学を選んだ理由について、自分の学力や入試の難易度以外に重視したものを複数回答で尋ねた結果である。

全体で最も高い割合を示しているのは、「志望する分野があったから」で 77.9%であり、昨年度の結果と同様に高い水準を維持しているが、昨年度の 84.1%よりはやや低下している。次に「国立大学法人だから」64.4%（昨年度 71.3%）、「大学の雰囲気・環境がいいから」58.9%（昨年度 68.6%）、が続く。学部別にみると、文教育学部・理学部・生活科学部で最も高い割合を示しているのは「志望する分野があったから」で同じである。

一方で、「地理的条件が合っているから（家から近い等）」は 44.4%で全体的に昨年度の 38.8%からある程度上昇した。学部別に見ると、実は理学部は昨年度の 55.3%から 48.5%へと低下したが、文教育学部と生活科学部が上昇し、特に生活科学部は昨年度の 26.1%から 47.4%まで 21.3%も増加している。

全体で最も大きく上昇したのは「経済的な負担が軽いから」である。こちらは学部にとらわれず、それぞれ 10%程度上昇し、全体としては昨年度の 40.9%から 52.6%に増加した。



図表 1-10 お茶の水女子大学を選んだ理由 (自分の学力や入試難易度以外)